

村夫子

セフレと……5

隣の年増メガネが
セックスフレンド



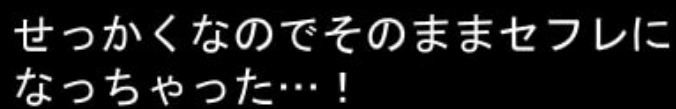
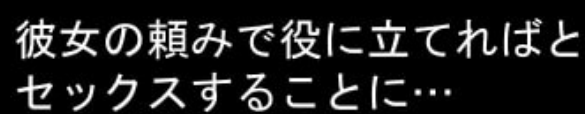
隣に住んでいる
ちょっとだらしない
年上女性「神山 舞衣」
「神山 真」のペンネームで活躍する官能小説家だ。
なかなか実用的なモノを書いてくれて
俺も数冊持っている。

でも彼女、最近大きな悩みが…



実は処女!!!

作品にリアリティが欠けてるのが
コンプレックスに…





陰毛有無差分あり！



仕様

基本
16枚

文字差分
242枚

文字無し差分
224枚

+陰毛有無差分

総計932枚
pdf版同梱

※メガネは外しません

村夫子2019

セフレと…5

隣の年増メガネが
セックスフレンド

その日はいつもどおりの朝だった。

お早う！

先生お早う御座います、徹夜明けですか？

徹夜はしてないけど明日締め切りでね。追い込みよ



先生こと彼女は隣の神山舞衣さん。
「神山真」というペンネームで
小説家をしている。
本格的な恋愛小説家を目指しているが
まだまだで、今は官能小説を書いて
食いつないでるそうだ。

だからといって官能小説を
馬鹿にしているわけでもなく、
作品に描ける意気込みは変わらない（本人談）
俺も数冊買った、言うだけあって
なかなか面白い上に実用的だった。

にしても相変わらずラフな格好だ。
特にその胸元は外に出る時
くらい閉めて欲しい
目のやり場に困る。



無理しないでくださいね。
今日の晩飯どうします？

うん、悪いけど
お願いするわ。
パワーの付くヤツで

わかりました、
帰ったら行きますね

こんな事が良くある。
俺自身料理は得意なので
役に立てるのなら悪い気はしない。



お早う！

お早う御座います

俺の上司、葵さん。
最近離婚して妹夫婦宅に
居候中だそうだ。
元々明るい人だが
離婚してから機嫌が
良くなった。

今日も引き続き
昨日の件お願いするわね

わかりました

葵さんは業務の
振り分けが上手いので
残業しなくて済む
ことが多いので助かる



今日も隣の
彼女サンにご飯
作ってあげるの？

彼女じゃ無くて
隣人です！

明日締め切り
なんだそうでパワーの
付くモノをリクエスト
されました

君料理上手だもんね、
向こうもすつかり
餌付けされてたりして

そのイヤらしい
顔やめて下さい

あはは、
じゃあ仕事の方
よろしくね〜



定時に仕事を終え、帰路で夕食の食材を購入し帰宅。

身支度をまた調えて先生宅にお邪魔して夕食を作った。

今夜は得意料理のハンバーグだ。

スタンダードな料理だが、きちんと

美味しく仕上げるには基本が大事な料理だ。挽肉料理なので消化も割と良い。

これから仕事に追い込みをかける先生にはちょうど良いと思った。

先生は気持ちいいくらい

バクバクと食べてくれた。

作った甲斐が多少はあったかな。

そんな先生を見ながら俺も

幸せな夕食時を味わった。

なんだかんだで親しい人と

食べる食事は良いものだ。

ごちそうさまでした、
美味しかったわ〜

お粗末様でした、
じゃあ俺片付けやりますんで
先生はお仕事頑張ってください

あ、
それなんだけど……

?
どれです?



さつき原稿上がった
送っちゃったんだ……

おお、そりゃ良かった。
じゃあゆつくりして
ください

あ、うん。
片付けが終わったら
ちよつと話したい
ことがあるから、
その、良いかな……？

？
良いですよ



夕食の後片付けを終え、俺は先生とお茶をすすりながら対面していた。

先生、話したい事って何ですか？

えーと、君は私の作品持つてるんだよね？

ええ、いくつか

その、男の人から見てどうか？ちゃんとエロく描けてるかな？

ええもちろん！ええと、だいたい使わせてもらいましたし……

知った仲とは言え、こういう話は流石に恥ずかしい

ええとね、
担当さんに言われ
たんだ。
私の作品にはリアリティが
少し欠けているって……

えええ？
そんなことない
でしょう

有り難う、
でも私自身そう
感じていたのも
確かなのよ……

そうなんですか？
素人の俺にはよく
わかりませんけど

実はね、
あたし……

？



え？

処女なの……

男の人とセックス
したこと無い
のよ……!!

……

想定外の告白に
俺の頭は真っ白に
なっていた。

そこでね、
聞いてる？

あ、はい
聞いてます



私と、セックスして
欲しいの……
その……
作品作りの参考に……

えええええええ
えええええええっ?!





こんな色気の無い
おばさんで悪いけど、
こんな事お願いできるの
君くらいしか居ないし……

いやいや色気が無いなんて
そんなこと無いです。
先生の胸元に俺がどれだけ
惑わされていたか……



いや、
私の方こそ……

かあ……

え???
私のことそんな
風に見てたの?

す、
すいません……

俺、先生の
作品好きです。
だからその
助けになるのなら……

はい！

……ありがと。
じゃあ早速お願い
できる……？

じゃあ私、
シャワー浴びて
くるから……

じ、じゃあ俺も
自分の部屋で
シャワー浴びて
きますね

……うん

俺はなかば動転
しながら自室に戻り
歯を磨きシャワーを
浴びて身体を洗った

身支度を整えた俺は
再び先生宅をたずねた。
先生も身支度を整えて
待っていてくれた。

「あの、先生。本当に俺で良いんですか……?」
「もちろんよ。君こそ私なんかと
セックスしていいの……?」
「もちろんです。俺、先生とこうしたいと
思っていました……」

先生は顔を赤くして俺を寝室へと導いた。



先生……

その、
オモチャで貫通済みだから、
ゴメンね……

いえ、
気にしないで
ください

先生が顔を真っ赤に
しながらバスタオルを
外していく



ど、
どうかな……？

先生、
綺麗です……

有り難う、
お世辞でも嬉しい……

お世辞なんかじゃ
有りませんよ

嬉しい……

本当に良いんですか？

良いよ。
今日は大丈夫な
日だから君の
好きにして……

俺はたまらず彼女を
抱きしめてキスをした。
いきなりディープキスだ。
彼女も積極的に舌を絡めてきた。

どれだけの時間そうして
いたのかわからない。
やがて俺は彼女を抱きかかえて
ベットに横たえていた。





そ、それで
どうかな……？

どき
どき

綺麗ですね、
クリトリスもビンビンに
勃起してエロイです

あーん

それって
褒められてる
のかな……？

もちろん、
舐めていいですか？

いいよ……









ふあああつ？

ブルルッ

痛かったら
言ってくださいね

あつ、
なに……っ？

くちゅ……

じゅぷぷ……

どうですっ。

わ、わかんないけどっ、
いいっ、かもっ……

動かしますね



うううんっつ、
んんっ

ふーっ
ふーっ

くちゅ
くちゅ

ひゅ
く
ひゅ
く

んっ♡
んっ♡

いいい、良いッ

ちゅっ…
ちゅっぶ

先生のキュンキュン
締め付けてきますよ

いやあ…

ブルッ





はあ
はあ♡

はあ♡
はあ♡

あっ、あっ、
あっ、あっ、

ピクッ

ピク

い、いきそう、
男の人の指で
イクの...っ

ピクッ

くちゅ
くちゅ

くちゅ

ぐゅ
ぐゅ

じゅふ
じゅふ

じゅふ
じゅふ

くちゅ
くちゅ

ぴく
ぴく

自分の指と
全然違う...っ



んっ、いくつ！
いっっちゃうっ！！

良いですよ、
先生のイクとこ
見せてください

いやあ、
恥ずかしいっ

大丈夫ですよ、
可愛いですから

んっ！

ブルッ
トロッ

ぐちゃ
ぐちゃ
じゅぽ
じゅぽ
ずっ



あああああっっ！

あっ、あっ、あっ！

ズ
グ
ッ

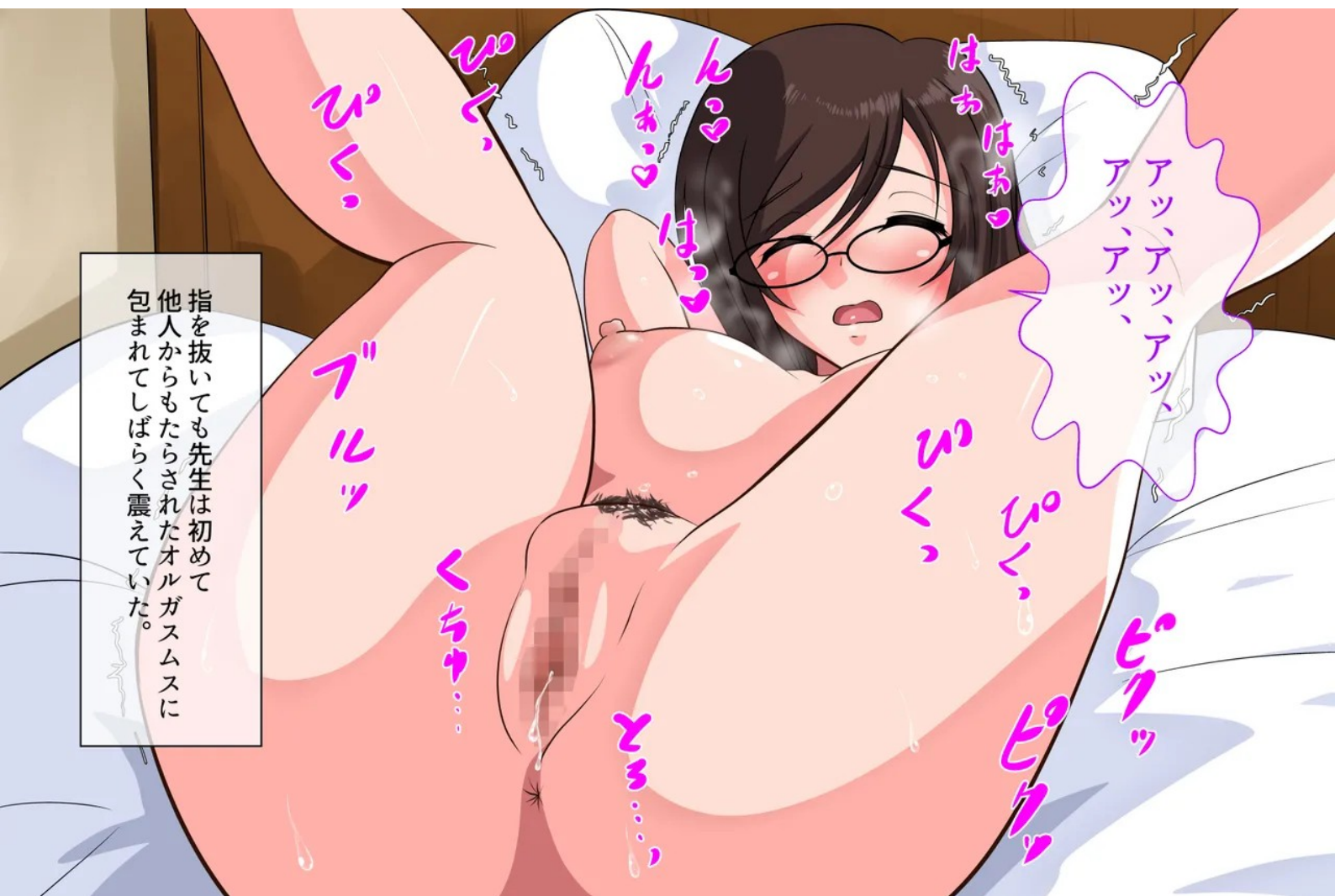
ズ
グ
ッ

フ
ル
ル
ッ

フ
ル
ル
ッ

ズ
グ
ッ
ズ
グ
ッ

ズ
グ
ッ





どうでした？

ちょっとびっくり、
他人にしてみらう
のってこんなに違うのね……

自分の指やオモチャとは
比べものにならないわ、
すごく良かったわ……

トロ……

♡ あぁ……♡

♡ はぁ
♡ ほぁ



まだ指ですけどね

次は君の
オチンチンね…

キュン
キュン
♡

はぁ♡
はぁ♡
はぁ♡

大丈夫ですか？

大丈夫よ、
欲しいの……

先生……っ



ああ…スゴイ、
本物のオチンチン……

見るの初めてですよね

子供の頃にお風呂で見たお父さんの以来かな……

勃起したのは初めてね……

ドキッ
ドキッ



先生、オモチャは
入れてたんですよね？

うん、
だから血は
出ないと思うわ。
ゴメンね

そんなこと
気にしないで
ください

ありがとう、
でも……

でもっ

あはは……

ん……♡

ががが

ががが

ががが

ピン

ピン



うん、
でも大きすぎるのは
恐かったから……

俺の、
大丈夫ですか……？

大丈夫、
だからお願い……

いきますよ……

うん

君のオチンチン
みたいに大きいのは
入れたこと無いから……

え、
オモチャならもつと
かなり大きいの
ありますよね

トクッ

ピクッ





あ..これ
ロストバー
ジン
ね.....っ

どうです?
痛くないですか?

ちょっとだけ、
平気よ.....っ
君こそどう?
私の..

凄く良いですよ、
締め付けもざらつきも

嬉しい.....

動きますね

うん

はぁ.....♡

あ.....♡

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

キュン
キュン

キュン





膺の滑りが
良くなってきた

先生、もう少し
動き速くするよ

うん……っ

あんっ
あんっ
あんっ

先生の身体が
熱くなってきた。
俺も体温が上がってくる。

ああん……
ああっ……あんっ

あ……

あん♡







先生、
本物のチンポ、
おいしいっ？

これ、これが
欲しかった
のおおっつ！

いいっ、
おいしいっ！

ズ
ブ
ッ

ハ
ッ
ッ

ア
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ズ
ブ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

あ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

あああああっ！
いいっ、
いいよおおっつ！

ア
ッ
ッ

ん
ッ
ッ

ア
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ

ハ
ッ
ッ



そんな事言われたら、
もうっ、
おかしくなっ
ちゃうっっっ！

だめっ！
だめっ！

先生のマンコも
凄くおいしいっ！



あたしの
おばさん処女マンコに
君のザーメンいっぱい
出してっつっつ!

うおおお
おおっつっつ

先生ッ、おれ、
もうっつっつっつ!

いいよっ!
きてっつ!







ぜえぜえ
先生、すごく良かった……

あたしも……
セックスって
スゴイのね……

先生、
おれ、まだ……

あ、
ちよつと待って

「フェラチオをさせてくれないかな？」

「え、良いんですか？」

「定番でしょ？」

「そりゃそうですけど……」

「初めてだからあんまり期待しないでね」

先生、
無理しないでくださいね

大丈夫、何事も経験よ
それに……

うふ♡

ん……♡

それに？





あたしだって、
作家として以外にも
エッチなことには
興味あるのよ

ね、♡

幻滅した？

そんなことは…

うふふ

先生……

これがあたしの
バーจินを捧げた
オチンチンなのね……

ドキ
ドキ

ドキ

ああ……♡

ぐり……

大きいのね、
口に入りきらないかも
知れないからゴメンね

そうあらためて言われると
なんか変な気分です

そんな、
してもらえる
だけで嬉しいです





んんん……っ

先生の小さい口ではやはり
くわえることは出来なさそうだ。

ん……っ♡

んん……♡

んん……♡

ちゅ……♡
ちゅ……♡

それでも懸命に亀頭を刺激してくる、
その姿が愛おしい

先生、
舌も使って
みてください

ん、うん

先生は口の中で
亀頭を舐めてくる
何か凄いぞ先生の舌は

ろう？

んん…♡

ぴちゅ

ちゅ

れろ

うん…♡

れろ♡

れろ♡

うん…♡

先生ツ、凄く良いですよ、
もっとして下さい……っ

手も使って
くださいっ

うん



おおっつ

思わず声が出てしまった、
先生のフェラ、凄いぞ。

ちゅ、
ちゅ♡

んっ、
んっ、
んっ、

んふん...

うん♡

ちゅ♡

おいひい、
おひんひん、
おいひい.....っ

先生もスイッチが
入ったみたいだ

ちゅ、
ちゅ♡





先生はとまどうこと無く
さらに一生懸命肉棒に
刺激を与えてきた。
俺の頼みに答えてくれる
ということなのだろうか？

うくん、うん、
んんんんっ

古中呼。

三ノ目

いいよ先生っ、
でる、だすよっ！

ん
ん
っ



先生は口内には
き出されたザーメンを
喉を鳴らして
飲み込んでいく。

うん、んんっ





ザーメンって
変な味ね

ん！

済みません……

はぁ……

あ……

ふはぁ……っ

ん……♡

はぁ、
はぁ

先生……



ううん、
嫌いじゃ無いわ
なんか、癖に
なっちゃいそう……

先生のフェラ、
すごく良かった……

そう？
良かった……

んく……

はぁ……♡

ん……♡



あん・♡

オチンチン、
まだ固いね……

はあ……♡

ああ……♡

良いよ、
あたしも欲しいの……

ん……

俺もつと
先生としたい……

ドキ
ドキ
キュン♡
キュン♡

次は後ろから
して欲しいな

えへへ、後ろつて恥ずかしい
とか言うけどホントに
ちよつと恥ずかしい感じがする

マンコもお尻も
丸見えになるから
ですかね

もう、バカ……

しょっぱなから
見てるんですけど

理屈じゃ無いのよ
こういうのは



既にヌレヌレに
なっているマンコに
俺の肉棒をズブズブと
押し込んでいく

んんんっ

ビュッ

すじっ
ズブ...

ズブ...

ブルッ

ブルッ

ブルッ

くうんっ!









ずぶっ

あああんっ、いいっ
いいよおっ……っ！

パチュッ

ずちゅっ

バック、
き、気持ちいい……ッ

もう少し強くして良い
です…ッ？

あ、♡

あん♡♡

はっ♡
はっ♡

うんっ♡

あ、♡

いいよっ、
きて……ッ

肉どうしがぶつかり合う音
結合部の湿った音
彼女のあえぎ声が混ざり合い
部屋に響く

先生のマンコ、
ホントに、気持ち
イイですっ！

んあっ、本当！？
うれしいっ！

ああんっ！
ひアンツ！

パン
びゅふ

ず
ぶ

パチュ

パンッ

おんっ♡

あんっ♡

チュ

ユザッ

おちん♡

んっ♡

なんでこんなに
良いんですかっ！

し、知らない
わよ、そんなの！



俺はさらに奥へと突き進もうと
強く腰を打ち付けた。

ヒイイイツツ!!!
グウウツツ!!!!!!

おぐっ!
おぐにいい
いいつつつ!!!

おちんちんつつ!
イイイツツツ!!!









ビクッ

ビクッ

ビクッ

あッ♡
あッ♡

♡
♡

プルッ♡

あッ♡

ああああ、
でてる……

ううっ、
止まらないッ

グッ

グッ

グッ

グッ



ぜー、ぜー、ぜー

先生、凄く
気持ち良かった……

は、

はあ

じゅふ……

はあ

あん♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ

きゅん♡

きゅん♡

はあ……♡

はあ

はあ

あたしも、
すごく良かった……



素敵な初体験
有り難う♡

もう、
おだてたつて
何も出ないわよ

いえ、
俺も凄く気持ち
良かったです。
先生の身体最高です

おだててなんて
いませんよ

うふふ、
君も最高よ



お陰で良い経験が出来たわ
作品の参考にさせてもらうね

うふふ、使うの？

お役に立てて良かったです
新作楽しみにしてますね

え？
そりやまあ……



その、君さえ良ければだけど
時々で良いからまた
あたしとエッチして
くれないかな……？

え？

こんなおばさん
じゃダメかな……



いえ、俺の方から
お願いしたいくらいです

……良いですよ、
先生がしたくなったら
いつでも呼んで下さい

そ、それじゃあ
セックスフレンドに……

君もあたしのこと
好きに使って良いからね……？

はい！

それじゃ早速もう
一回して良いですか

うん、良いよ。
あたしも君と
もっとなしたい……

こうして俺と先生は
セックスフレンドになった。



あれから昨晚はやりまくって
流石に疲労+寝不足だ。

だって先生の身体との相性
抜群なんだよなあ…。

サキユバスって
あんな感じなのかな…



ん？
何か元気ないわね、
どうしたの？

この人察しが
良いんだよな、
助かることも多いけど

いや、昨晚隣人に
遅くまで付き
合っちゃったので



小説家の彼女？

彼女じゃなくて
隣人です。(セフレだけど)
そうなんです、最近表現に
リアリティが足りないとか
でそんな話してました。

うーん、
参考になるかわかんないけど
ウチの近所にも小説家先生が居てね、
なんでも自分を追い込むために
ローン組んで今の家を買ったんだって



背水の陣ですか

そうね、
効果があつたのか仕事も
順調でお嫁さんもゲットしたって話よ。
赤ちゃんも生まれて可愛かったわ

やっぱり
自分を追い込まないと
ダメなんですかね？

限度はある
だろうけど多分ね。
前向きな希望は
必要なんじゃない？

先の小説家先生も
結婚してからさらに
良くなったみたいだし、
まあ私は結婚相手
ダメだったけど



結婚も善し悪しですね、
葵さんも離婚してから
業績上げて課長に
昇進でしたね

あはは、
私の場合は相手の
見極めが甘かったのよ。

妹夫婦は幼馴染みでお互いを
知り尽くしているから
上手くやってるわよ。

見極めですかあ……



先生とセフレとして
何度か身体を重ね合い
しばらく経ったある夏の夜。

いつものような夕食後の時間に
彼女が切り出した。

リゾラバって知ってる？

リゾート地なんかで
その場限りの恋愛、
でしたっけ？

そうそれ！
今度それを描いてみたいと
思ってるのよ、
担当とも話をして
プロットを組み立ててる所

面白いですね



でしょ！
だから取材と一緒に
リゾート地に行かない？
日程はこの日で

はい？

あ、ゴメン急な話よね。
有給取れとは言わないわ。
費用は全部あたしがもつから

多分大丈夫です、
有給まだ充分残ってますから。
平日ですよ、
なんでこの日程なんです？



平日は空いている
というのもあるけど
この日はね、
ええと、その……

安全日なの……

絶対に行きます





というわけで

飛行機で1時間ほど、
海辺のリゾート地にやってきた。
平のサラリーマンには
なかなか縁が無いところだ。

先生、
また偉いところ
取りましたね

せつかくだから、ね

平日だから
人もまばらですね

うん、
この方が取材し
やすくて良いわ



早速チェックインを済ませ部屋に荷物を置くと
舞衣さんはメモ帳とデジカメを取り出し早速取材を始めた。

「スマホで両方とも済ませられるでしょうに」

「そうなんだけどメモ帳は直感的に書けるのが良いのよ。
デジカメは当たり前だけど写真専用機だから
写真に関してはスマホより一枚上手よ」

「メモ帳はともかく、小説書くのに写真で大事なんですか？」

「人に寄るだろうけど私はイメージを補強したり
してくれるアイテムだから大事にしてるわ」

ホテル内を一通り回り
部屋に戻ると
舞衣さんが提案した。

ねえ、
水着に着替えて
ビーチに行かない？

良いですね、
せっかく来たんですから

じゃ、じゃあ
着替えてくるね……

俺も海パンに着替える。





……すごく、
良いです……

ど、どうかな……？
ちよつと頑張つて
みたんだけど……

えへへ……



したくなっちゃった
んだけど、
良いですか……？

あ、ダメ。
もう少し待って……

ええ……

ちよつと悶々としながら
先生と海へと繰り出した



うわすごーい！
海青い！ 砂浜白い！
空青い！

綺麗だなー。
関東以外の海は初めてだけど
軽いカルチャーショックだ



あははそうだね、
特に湘南は砂浜は
砂鉄の所為で黒いし、
その砂浜の所為で
波も黒いしね

そうなんだ、
詳しいですね

お仕事柄色々
知ることが多いのだよ

にしても先生って年相応に
たるんでる所もあるけど
良いスタイルしているなあ

このビキニを来たまま
エッチな事しまくりたいぜ





エスパーですか先生。

めっ！

あ、すいません

ちよつとお、
今はお仕事中なんだから



ふふふ、
そのドスケベな目を見れば
わかるのだよ

え、
そんな目を
してますか？！

にやり…

物書きの観察眼を
甘く見ないでね

先生はちょっと
でも興味が向くと
デジカメで写真を撮り、
メモを取っていた。

そんな姿は色気とは違うが
とても魅力的だ。





お待ちせ、
とりあえず一通りの
取材は出来たと思うわ

お疲れ様です、
せっかくですから
ひと泳ぎしますか？
それともホテルに
戻りますが？

それなんだけど、
向こうにちよつと良い
ところがあるんだ……

取材は終わった
んじゃ……？

実はここ、一部で有名な
隠れスポットがあるの
殆ど人目に付かない……ね





浜辺奥にある岩場に来了。

確かに誰からも見えないし海水浴場からも
だいぶ離れている。

良い具合に開けているところもあって
大声を出さなければ色々出来そうだ。

「そうだ、リゾラバって設定でしてみようか」

「そうですね、じゃあ俺と一緒に来るはずだった彼女と喧嘩して
キャンセルするのが勿体なくて仕方なくひとりで来た男で」

「うんうん」

「先生は長年付き合っていた彼氏に振られて傷心旅行のOLってのは」
「良いわね、頂くわ」

「じゃあ早速、ごほん」

彼女を抱きしめてキスをする。

「んん、うん……あん、ナンパしてすぐこんな事するなんて強引なのね……」

「お姉さんがそんな大胆なピキニを着て俺を誘惑したからです」

「うふふ、年甲斐も無く頑張った甲斐があったかしら」

「年甲斐なんて、お姉さん、とても綺麗ですよ」

「ありがとう、うれしい。」こもこんなに大きくしてくれて……」

彼女は既にそそり立った俺の肉棒を海パンの上からさすってくる。

「お姉さん……っ」

「あん、舞衣って呼んで……」

「舞衣さん、その、胸でしてくれないかな……」

「……いいよ、おっぱい好きなのね……」



動かすね

は...♡

あ...♡

むに

どう、かな.....?

良いですよ、
舞衣さんの胸張りがあって



うん

むっ

んっ♡

んっ、
ど、どうかな...?

すっ

すっ

すっ

舐めたりしても
良いですよ

もう少し強く
して良いですよ



♡ちゅ♡
♡ちゅ♡

ぴゅ
ぴゅ
ぴゅ

ん♡

こうかな...?

れろ
れろ♡

こそ
こそ

良いよ舞衣さん、
もつと舐めて.....



あゝ♡

ああ、
先からおつゆが
出てきた……

おん♡

シュッ
シュッ

はぁ♡
はぁ♡

嬉しい……っ
もっと頑張っちゃうね

舞衣さんが気持ち
良くしてくれるから











あゝ♡

いいよ、出して、
あたしにかけて……ッ

はは♡♡

♡、♡、♡、♡、♡、♡

♡、♡、♡、♡、♡、♡

♡、♡、♡、♡、♡、♡

君の熱いの
いっぱいかけてっ！

な♡ あ♡♡



舞衣さんっ、もうっ、
出ちゃうっ!!!

出してッ!

はあ
はあ、

コス
コス

ズ
ズッ

君のおチンチンが
射精するところ
見せてッ!

あんっ♡

あ、あ、
♡♡



あんっっ!?

うっっっ!



はあっ、はあっ、
はあっ……っ！

あん……♡

ああ、凄く熱い……

あは……♡

がっ
がっ

ん……♡

がっ
がっ

それにスゴイ
におい……



んんっ、
ザーメン美味しい……

舞衣さん、
凄くいやらしいです……

んんっ……♡
はぁ……♡
あゝ……♡
んんっ……♡
ぴゅ
ぴゅ
ぴゅ



こんな女、
イヤ……？

男なら誰でも
良かったんですか……？

あ……♡

も……♡

そんなこと無いわ、
君じゃなかったら
こんな事しないよ……

あん♡

いいよ、来て……

舞衣さん、
俺まだおさまりません

流石にあまり大きい声を出すわけには行かないので声を押し殺している。

あゝ♡

んっ♡

んん、
ああああん……っ

あ……

いいよお、
これが欲しかった
のお……ッ

じゅぽぽぽ

ずぶう……





ゆっくりと
ピストンを始める。

んんふんんうっ

くんん、んんんっ

押し殺した
あえぎ声が色っぽい。

ずりっ
ずりっ
ずりっ

プルン





股間のぬめりが増し、快感も増大してくる。

ひん、いっつ、ぎっ!

ぎひっ、ウグツツ!

うづうつ、ウツツ!!

いッ いッ いッ ♡

うっ♡

ぐっ♡

そ

ブルッ

ずちゅ

ずちゅ

じゅふッ

さらに激しく
腰を打ち付ける。

ぎっ、ヒッ、ヒッ、
ヒグツツツ！

ウウウウツツ、
ひいひいっつっつ！！

✱
♡







そろそろ限界が近づいてきて
ピッチを上げる。

かはっつ！
あっつっつー！

……ッ！！

舞衣さんも声を
押し殺し続けるのが
苦しそうだ。









あたしも、
声をこらえきれ
なかったわ....

はあはあはあはあ.....っ
舞衣さん、すごく良かった



舞衣さん、
俺もつとしたいよ……

良いよ、
ホテルに戻って部屋で、
あたしの部屋に来て……

あゝん♡

ほあ♡

ん♡

ほあ♡

まだ設定
生きてるんですか

うふふ♡

ふたりに海に入り、ザーメンや愛液などを流したが、ホテルへと戻る道中すれ違う人達に臭いがばれないかとヒヤヒヤものだった。

気付かないふりをしていてくれたいたのかも知れないが…。

部屋に戻ると舞衣さんはトイレにしばらく入っていた。海でお腹冷やしちゃったかな。

あらためて一緒にシャワーを浴びて身体を洗う。その際もひたすらイチチャイチャしながらキスしたり愛撫し合ったりした。

何か付き合いたてのカップルみたいだ。





いえ、
俺も好きですけど……
舞衣さんこそ
大丈夫ですか？

オモチャなら
入れたことあるし、
さつき綺麗に
してきたから……

トイレにしばらく
入っていたのはそのためか



舞衣さん!!!!

あん♡

来て、
あたしのアナルバージン
もらって……

俺は思わず舞衣さんを
ベッドに押し倒した。

キスをし、胸を揉み

乳首を吸い、体中に舌を這わせて
舞衣さんの身体を隅々まで味わった。

今まで触れることが殆ど無かった
尻穴も舐めていじりまくった。

もう何度もエッチした仲だが
舞衣さんの身体は飽きない。
いまだに初々しい反応も
俺の興奮をより高めてくれた。

前戯ですっかり
出来上がった舞衣さんは
メスの臭いを放ちながら
俺を誘ってくる。

そろそろお願い…
欲しいの……

何が欲しいの？

もう、
意地悪しないで……

ハッキリ言っ
てくれないと
わかりませんよ

んもうっ♡

君のおチンチンを
あたしのお尻に入れて
突きまくって欲しい
のお……!!



オチンチンってこれ？

アナル処女なのにおねだりしちゃってイヤらしい人ですね

そう、
それよ……っ

ああ……♡

ん……♡

だって、ずっと
欲しかったのお……っ

はあ……♡

♡

ああ……♡

もっと前に俺の方から
求めるべきだったのかな……

ドキ

ドキ

ドキ





舞衣さん痛い……？

くうううっ、
ウウツツツ！！

ズ
ヌ
……

ず
ぶ
ッ

ん
ん
ん
ん
っ！

ブル
ッ

ビ
ク
ッ

ビ
ク
ッ

う
く
ッ
♡

ん
ん
♡

ヒ
ッ
♡

い、痛いけど、
大丈夫っ……っ



す、す、すのうのう……

あ……♡

ピクッ

ピクッ
ピクッ

ぐ
チュ……ッ

ちゅ……♡

あああ……
オチンチン入ってる……っ

お尻でセックス
してるう……ッ

ブルッ

んあ……♡

んん……♡



舞衣さんのお尻、
凄く良いですよ

いやあ、
ほ、本当に良い……？

入り口がぎゅうぎゅうに
締め付けてきて
中はヌルヌルです

ああん、
嬉しい……っ

動きますね

うん、
ゆっくりお願い……っ

あ……♡

ん……♡

♡

あ……♡

んく……♡

キュン♡

オニン♡

ちゅ……

ギョッ

ブルッ

ブル
ブル
ブル



もう少し早くしますね

いい……っ

クン、ウン、
イツツツツ！

んんんっ、
ウンツ！

たら……っ

ズ
チュ……

ズ
ツ

ズ
ズ

ピ
ン

ピ
ン

ん
ッ♡

ん
ん♡

ん
ん♡



すっ
ちゅっ

ああつ……
あふううんっ

え
グイユッ

ズ
ブッ

タラ
タラ

あつ、アウンッ

もっ……あ……っ

ビク
ビク

うふんっ♡

んっ♡

あ
ん
ん
ん

もっ……あ……っ



いいっ!
すごくいいよおっ!

はああんっつ!

もっとな...
もっとお尻の中かき
回してえええっつ!

んっ♡んっ♡

アッ♡

アッ

ひアッ♡

んアッ♡

あ♡あ♡

ズッ♡ズッ♡

ズッ♡ズッ♡

ズッ♡ズッ♡









おなかの中に
ザーメンが広がって
くるの……

あ……♡
あ……♡

すごい……ッ

ぜえ、ぜえ、
ぜえ、ぜえ……

ああ……ッ

♡はあ……♡

あん♡

ブルッ

ブルッ

ブルッ

どくんっ
どくんっ

どくんっ
どくんっ

びゅん

びゅん

どくんっ
どくんっ

びゅん



もう行きずり男女なんて設定をすっかり忘れて
この夜は一晩中エッチしまくった。

穴という穴にザーメンを撃ち込み
舞衣さんの身体中にザーメンをかけまくったのだった。
気持ち良かった……

この取材旅行で良いインスピレーションを得たのか
帰宅後舞衣さんは執筆に集中するようになった。

食事や家事をしに行くことは変わらずあったが
エッチの方はあまり出来なくなった。

いやー、
終わった終わった

お疲れ様でした

今日執筆作業が終わったそうさ。
まだ編集がらみの作業はあるそうだが
一区切りついたとのこと。

ありがとうね
君が助けてくれたから
良いモノが書けたわ

いえいえ、
どういたしまして



ところでさ、
久しぶりに良いかな…？

セックスですか？

しばらくあたしの都合で
あまり出来なかったから…

良いですよ、
でも覚悟してください、
俺たまってますからね

うふふ、
今夜は君の好きにして……
でもあたしだって
たまってるんだからね



その夜は舞衣さんを犯しまくった。
彼女も俺を激しく求めてきた。

一通り事を終えてまどろんでいる最中に
彼女が切り出してきた。



担当さんと話したんだけどさ
次は温泉を舞台にして
みたらどうかって
事で進めてるの

定番と言えば
定番ですね

でしょ？

そこでまた
取材旅行をしようかと
思ってるの、どう？

彼女の目が俺を誘っているのを
ありありと感じた。

良いですよ、
まだ有給残ってますから





うん♡

有り難う、
日程とか決まったら
また連絡するね

また楽しい旅行に
しましょうね

というわけで
温泉街にやってきた。

目の前にあるのは
これまた立派なホテルだ。
この正面から奥に向かって
100メートルくらいはありそうだ。

ホテル曼珠沙華





結構立派なホテルですね、
てつきり木造の温泉旅館かと

それはそれで
風情があつて絵にもなるし
良いんだけどね

何か問題でも？



所でこれを見て

木造の旅館はね、
その、防音がね……

なんです？

あ、なるほど



じゃじゃん！



舞衣さん
指輪なんて持って
たんですか

あたしだって
指輪でオシャレの
ひとつ位するわよ

で、それを
どうするんです？

指輪は指に
はめるモノよ

そりゃ
そうですけど

どう？ これで
「人妻との不倫旅行」
を演出するって寸法よ

タイトルは
「人妻不倫温泉」なんて
ダイレクトにどう？



それ、
同タイトルの
AVありますよ

ええっ?! じゃあ
「中出し人妻不倫旅行」

それもあります





「背徳の秘湯」

「若妻不倫温泉」
「孕ませ不倫温泉」
「人妻湯恋旅行」

それもあります

それも
みんなあります……



おのれAV業界、
なかなかやるわね…

官能小説作家の
端くれとして負けて
らんないわね



その意気です、
頑張りますよう

ふんっ!!

この取材旅行で
良いタイトル絶対
思いついてやるんだから

にしても詳しいわね。
人妻モノ好きなの？

ええ、結構好きですよ





よしよし良かったねえ、
君はこれから
人妻不倫モノの竿役だ

そこは主人公って
言ってくださいよ……

チェックインして部屋に着くなり舞衣さんはカメラとメモ帳を取り出し取材を始めた。相変わらずアグレッシブな人だ。

俺はそれに付き合ってホテル内外と一緒に歩き回った。舞衣さんは観光スポットだけでなく、道ばたにある小さなお地藏様等にまで興味を示し写真を撮ったりしていた。昼食も何でも無い大衆食堂でとり、現地の人々の雰囲気を感じたり出来る限りきめ細かな現地の描写をしようと取材を重ねていた。

官能小説にそんな細かいところまで要るのかどうかなんて素人の俺にはわからないが、本格的な小説を目指している舞衣さんにとってはとても大事なことなんだろうなと思っている。

それに俺が少しでも役に立てるのなら光栄だ。



ひとつ残念な
お知らせがあります

ここの大浴場も
露天風呂も混浴では
無いのです！

どういふことです？

夕方になり部屋に戻ると
舞衣さんが告白し始めた。



な、
なんだってー!

露天風呂でエッチが
出来ないのだ!

というわけで、
私はひとりで露天風呂を
楽しんでくるので宜しく

俺もそうします、
じゃあまた後で

うん、
綺麗にしてくるね

あ、はい……
俺もそうします



露天風呂に浸かりながら暮れゆく空を眺めていた
俺みたいなサラリーマンにとっては
とても贅沢な時間の過ごし方だ。

夜になったら舞衣さんとまた
エッチしまくるかと思うと期待が高まる。

夕食後、部屋でくつろぎながら
舞衣さんと今日の思い出を
語り合っていた。

会話の端々に
今夜の情事を考えているのが
伝わってくる。

ねえ、
温泉一緒に入ろうか……





ああ、それなら

うふふ……

この部屋に
あるお風呂よ
そこなら一緒に
入れるでしょ？

混浴じゃ無いんじゃ…？



そうそう、
設定を作らないと

やるんですか？

そりやあせつかく
指輪もしてるんだし

うん
じゃあ舞衣さんは旦那さんから
相手にされなくなった
欲求不満の人妻で

うんうん

俺は旦那さんの部下で、
何度かお宅に訪れていく間に
奥さんに惹かれてしまい
恋に落ちる
みたいな

ベタですかね

やたら凝るより
シンプルな方が良いかも
しれないわ
それでいきましょう

「じゃあ、」ほん

「奥さん、本当に良いんですかこんな事……」

「あの人のことは気にしないで、ううん、忘れさせて下さい……」

「奥さん、俺はずっと貴女に惹かれていました……」

「ああ嬉しい、でも恐いの、戻れなくなっちゃう……」

「大丈夫です、俺が付いています」

「ああ、なぜ君は私の前に現れたの？」

「何故私はあの人より先に君と出会えなかったの？」

俺は思わず奥さんを抱きしめてキスをした。

奥さんも俺を求めて抱きしめてくる。

長いキスの後、唇を離すとふたりの間に透明な糸が伸びる。

「お風呂、入りましょうか……」

「ええ……」



ああ素敵、
これが貴方のオチンポ…

あ…♡

私、ずっとこう
したかったんです

♡ふっ♡

イヤらしい人ですね

こんな淫乱、
お嫌ですか…?

ちゃふ、

ちゃふ、

奥さん、
いきなりこんなことを…

そんな事ありません、
俺だって奥さんに
こういう事して欲しかったし
全部の穴にザーメン流し込んで
身体中にザーメン
かけたと思ってます

ああ
とても楽しみです……





ああ、
おつゆが出てきましたね

あん♡

奥さんが上手だから

はあん♡

キョ♡

キョ♡

ん♡♡♡♡

ん♡♡♡♡

うふふ、
おつゆ頂きますね…

チャポ

チャポ



ぱく、れろれろ

うおっつ

ちゅっ♡

ちゅっ♡

んんん♡
レロ
レロ

ちゃっ
ぽ

うんふ、うん

ちゃっ
ぽ

ちゃっ
ぽ



うふふふ

くちゅ

ろう？
ひもひいい？

奥さんのフェラ、
凄く良いです

ちゃぷ

んっ♡

んっ♡

んっ♡

ちゃぷ

ちゃぷ

ちゃぷ



竿が舞衣さ、奥さんの
唾液でベトベトになってきた。

んつく…
んじゅるっ…んん

んんじゅふんく…



私に貴方の
臭いつけて下さい……

ああ奥さん、
俺イきそうです

良いですよ、
私にかけて下さい……

奥さん……







はあっ、はあっ、
はあっ、はあっ、
はあっ、

ああ…♡

はあん…♡

うん…♡

ああ素敵、
こんなにたくさん……

ちゃっ

ちゃっ

ちゃっ

キュン
キュン



美味しい、
これが好きなの……

あん、良い……



うおっ?!

ブルッ

はくっ

ちゅふ♡
ちゅふ♡
ちゅふ♡

ちゅ♡

ん♡ん♡

んん、うん、うむん...

ちゃぽ

ちゃぽッ



ちつとも萎えないんですね
貴方のオチンポ…

はぁん…♡

おお…♡

はぁ
はぁ

ん…♡

うふふ、嬉しいです…

イヤッ

イヤッ

奥さんが
エロイからですよ

「奥さん……俺、まだ収まりません……」

「待って、もう上がろう」

「え？」

「のぼせそう……」

「あ、それもそうですか……」

「ごめんね」

「いえ、そういえばAVでも温泉浸かりながらの本番ってあまり無いですね。あれのぼせちゃうのか」

「温泉でズコバコあまりリアルじゃないのね」

続きはお布団でという事になった。

あああ……
久しぶりの
オチンポ、良い……ッ

先週もいっぱいしたでしょ。
という突っこみは無しで、
ご無沙汰の人妻という設定優先だ。

あん♡

ああ……♡

はぁ……♡

奥さんの
マンコも良いです
使っていないかった
なんて勿体ない……

ああ……♡

キョッ
キョッ

グチュ

ズブ……ッ



奥まで到達すると
身体を震わせて久し振りの
肉棒を味わう。

ああ：
♡

素敵です…
ずっとこれが
欲しかったの…

ピクッ

ピクッ

今夜は好きなので
味わってください

嬉しい……っ







いいっ、やあっ
すごっ……っ

ぐちゅ

じゅふっ

すっいゅ

あッ

んッ

んふっ

あん、あんっ、
ああんっっ!

動かす度に電気が
走るみたいッ……!!

んっ
んっ
んっ

濡れた結合部が
放つ湿った音が
部屋に響き渡る。

イチキュッ

あん、ダメツ、
あああつつつ！

ズ
ブ
ッ

奥さん、俺、良すぎて
イッちゃいそうです！

ジ
ュ
ブ
ッ

グ
じ
ゃ

ド
ッ
リ
ャ
ッ

ん
ん
ん

ア
ッ
ア
ッ

ダメツ！
まだダメツツツ！

限界まで我慢して
一杯たくさん中に
出して欲しいのツツツ！





俺も合わせて突き上げる。
膣の奥まで強く突かれた
奥さんは全身を痙攣させた。

あひいっつっ!

ひいっ、
ひいっつ!

いしゅごいっつっ
いっつっ!













はあ、はあ、はあ、はあ……ッ

あああ、アッ

オ、オマンコの中、
ザーメンいっぱい……ッ

カハッ、アッ

トッ、ビョッ

ビョッ

ブルッ

ゴッ、ゴッ、ゴッ

ビョッ、ビョッ

お……ッ



奥さん、
本当に中に出して
良かったんですか？

大丈夫な日ですから、
それに

？

貴方との赤ちゃんなら
私頑張って育てます…

奥さん…

はあ…
はあ…

はあ…
はあ…

ん…
♡

ドキ

ドキ

ドキ



愛してます...

俺も...

演技のハズなんだが
何だろう、この気分は...



良いよ、
あたしも欲しい…

舞衣さん、
お尻でしたい…

うふふ、そうね

あ、まだ設定
生きてます？







ああ、奥さんの尻穴、
凄く気持ち良い

あぐっ、う、
嬉しい……ッ

ああ……ッ♡

動かしますよ、
痛かったら言ってくださいね



奥さんも尻穴で
じっくり味わってください

ああ、
そんなにゆっくりっ！

すずすずぬぬ...

ぬちゅ...

あああ、わかるの...、
お尻の中をオチンポが
かき回してるの...ッ

犯されてるっ、
お尻犯されてるのっ...ッ

いっひっ...
あッ♡♡♡

ピクピク



奥さん、本当にアナル
初めてなんですか？

本当ですっ、
指しか入れたこと
無いんですっ！

あああっ、いいっつ
もっとおおっ

ずっと
したかったんですね？

はいつ、でも主人は
興味なくって……ッ

急に嫉妬心が湧いてきた。







スパートをかける。
奥さんは限界目前でガクガク震えている。

あぁっあうっ
おッ、アッッッ

もう、
ダメッッッ!

俺もいき
ますッッッッ!







「ねえ……『人妻アナル温泉』てのどうかしら？」

「それもあります……」

「ぐぬぬ……」

そんな取材を基にして
舞衣さんが書いた官能小説は
なかなか好評のようだ。

俺も購入して使わせてもらった。

ある日舞衣さんにその話をしたら
ちよつと複雑な顔をしていたが
その夜は目一杯エッチしたらご機嫌に戻った。

そんなある日。

何です話って、
また取材旅行ですか？

いや、そうじゃないの
もっと大事な話

いつになく真剣な顔が
俺を不安にさせる。





実はね、
小説デビューが決まったの

官能小説以外ですか！
お目出度うございます！

有り難う、
そこでなんだけど

はい

家を買ってここを
出ようと思うの

え？

前に君に聞いた
小説家の話の事を考えてね、
あたしもこの機会にローンを
作って自分を追い込みたいの

そ、
そうなんですか

ここを出て行くなんて、それじゃあ、
もうこの関係はお終いなのか…
そんなの……っ。

舞衣さん、俺ッ

待って、
あたしの話を聞いて





だからね…

あたしは知つての通り
家事の類いはさっぱりダメなの

その…



あたしと
結婚してくれない？

しばらく俺の頭は
フリーズ状態だったが
答えはひとつだった。

はい、
結婚しましょう！

ありがとう…♡

色々とすっ飛ばした
ような気がするが
まあいいだろう。



それから程なく俺は舞衣さんと結婚した。

中古だが新居を買い、夫婦生活が始まった。

と言っても、生活その物は結婚前と殆ど変わらない。

俺は会社に勤め、舞衣さんは家で原稿を書く。家事は舞衣さんもやるようにはなったがだいたい俺がやってる。こんな家庭もありだろう。

忙しい日が続くこともあるがそれが終われば……



あゝん♡

あゝん♡

ドキ

ドキ

もう、早く頂戴い♡

舞衣ってば
せっかちさんだな

ドキ

今日は生中出し
して欲しいの♡

だって久し振り
なんだもん



欲しいのは
これで良いの？

意地悪う、それが良いの
それじゃ無きやイヤなのお

あ…♡

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ビーン
ビーン

じゃあいくよっ！

ん…♡♡♡



あッ♡

ひゅッ

あああんっつ!

ストブッ

じゅっ
ふい

どう?
久し振りのオチンポは

いいのっ!
最高よっつ!

あぁ♡♡



舞衣のオマンコも
最高だよ

んんんんつ、
嬉しい……っ

うん、

ゆっくり動くよ……

ブルッ

んん…っ♡

ひくッ

ひくッ

ちゅ…

くちゅ…



んん
♡

んん
♡
ふうん♡

プルン

あんふううっ
うんっ、うんっ

スッ

ズチ
ュッ

ズ
ッズ
ッ

んくううっ、んんっ
いい、良いのおお……っ

強くするよ





あああつつつ！

スト
グ
グ
グ

スト
バ
バ
バ

スト
バ
バ

中がっ、
熱くなつて
くるのおっ！

気持ちいいのツツツ！

あっ
っ

あっ
っ

アッ
っ
アッ
っ



ひっ♡

かばっ♡

ああああ♡

あっ♡
アッ♡

ちゅっ♡
ぢゅっ♡

あんっ、
だめっ!だめっ!

ばっ♡
かゅっ♡
ズッ♡
ズッ♡
びっ♡
びっ♡

ダメだよ、
俺がイクまで我慢して!
一緒にイこう!

いっっちゃうっ!
イツちゃううッッ!

ガッ♡
グッ♡
グッ♡
グッ♡
グッ♡
グッ♡

わっ♡









いっぱいだね…

ああ、そろそろ
出来ちゃうかもな

ドロオ…

くちゅ。

あ…♡

あたし達の
赤ちゃん…？

まだダメかい？

ああ…♡

オムッ

ん♡

そんなことない、
あたしも早く欲しい…



うん、
赤ちゃん作ろう…

もう一回しようか

そう遠くない未来に
家族が増える事にな
りそうだ

END